

25年7月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 6月20日～ 7月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		25/7月	8月	9月
伐採動向	スギ	12.5	14.3	28.6
	ヒノキ	25.0	16.7	16.7
	カラマツ	25.0	25.0	37.5
	エゾ・トド	50.0	50.0	100.0
出荷・販売動向	スギ	16.7	20.0	10.0
	ヒノキ	25.0	16.7	16.7
	カラマツ	25.0	12.5	37.5
	エゾ・トド	50.0	50.0	100.0
手持立木在庫動向	スギ	14.3	14.3	7.1
	ヒノキ	16.7	16.7	16.7
	カラマツ	16.7	16.7	16.7
	エゾ・トド	50.0	50.0	0.0

伐採、出荷・販売動向はスギ、ヒノキ、カラマツとも7月のマイナスが9月に向けプラスに、エゾ・トドは7、8月のプラスが9月にはマイナスに。
手持立木在庫はスギ、ヒノキ、カラマツとも増加傾向で推移、エゾ・トドは7、8月の減少が9月には増加に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

・トドは間伐材需要でやや増、カラマツは需要あるがトドマツ伐採中で減、カラマツは来月から国有林生産請負で増加。

・梅雨時期主伐、間伐控えめ。

・国有林の材の伐出が本格化。・スギ間伐が今月以降やや増加。

(出材・販売動向)

・トドマツは翌月からのカラマツ生産で翌々月から減、カラマツは来月から国有林生産請負で増加。単価横ばい、カラマツ丸太不足気味。

・国有林材が出てくる。

・スギB材(4m、16上曲がり)は出荷しないよう調整。

・スギ、ヒノキは6月から市場に出材少ない。

(手持ち立木在庫)

・スギ民間立木引き合い多くなった。

・間伐材を購入し、やや増加。